

【演題名】先天性無痛無汗症患者と正常者の涙液と眼表面の比較

【英文タイトル】 Ocular Surface of Patients with Congenital Insensitivity to Pain with Anhidrosis

【ショートタイトル】 無痛無汗症と正常者の涙と眼表面

福岡詩麻<sup>1,2</sup>、有田玲子<sup>2,3</sup>、宮井尊史<sup>2</sup>、白川理香<sup>2</sup>、豊野哲也<sup>2</sup>、小野喬<sup>2</sup>、山本理紗子<sup>2</sup>、落合眞紀子<sup>2</sup>、柳澤美衣子<sup>2</sup>、田原<sup>2</sup>、相原一<sup>2</sup>

1. 大宮はまだ眼科、2. 東京大、3. 伊藤医院

【目的】先天性無痛無汗症(Congenital Insensitivity to Pain with Anhidrosis; CIPA)は、全身の温痛覚障害、無汗症がある稀な遺伝性疾患である。これまでに我々は、CIPA 患者では6歳以上で点状表層角膜症(SPK)を高率に認めること、角膜内神経が減少し角膜知覚が低下していること等を報告してきた。今回我々は、CIPA 患者の涙液及び油層に関して正常者と比較した。

【対象と方法】対象はCIPA 21例 42眼、年齢1~65歳(平均15歳)、正常者 25例 50眼、年齢4~65歳(平均15歳)である。涙液油層厚(LLT)、涙液メニスカス高(TMh)、非侵襲的涙液層破壊時間(NIBUT)、涙液光干渉像、前眼部、フルオレセイン染色涙液層破壊時間(FBUT)、マイボスコア、角膜知覚を可能な限り検査した。

【結果】正常者とCIPAでは、SPKを10、52%に認め、TMhは平均0.25、0.19 mm、NIBUTは6.9、3.6秒、FBUTは5.1、3.3秒( $p < 0.001$ 、 $= 0.004$ 、 $= 0.001$ 、 $< 0.001$ )だった。LLTは70.6、75.1 nmで、合計マイボスコアは0.6、1.3で、有意差がなかった( $p = 0.58$ 、 $0.17$ )。涙液干渉像は正常パターン、涙液減少型、蒸発亢進型ドライアイパターンが正常者65、18、18%、CIPA 19、38、43%( $p = 0.003$ )だった。コシュボネ型角膜知覚計は57、26 mm( $p < 0.001$ )だった。

【結論】CIPAでは、痛覚の障害があり、正常眼と比較しホメオスタシスの維持が困難であり、涙液中の水と脂のバランスが悪化し、涙液の安定性が低下している可能性がある。